



● 本堂の屋根防水工事が終わりました。元の屋根の上に鉄板を葺き、そっくり覆った形ですので、あまり変わりはありませんが安心です。本堂・庫裏の周りの足場が無くなりましたので、入りやすくなりました。門徒会館の建築は鉄骨が組み終わり、屋根の工事に入っています。内部も間仕切りの工事や天井の工事が始まりました。



仏壮暑気払い  
のお知らせ

7月29日（土）

午後6時半から

大川（中央通）

TEL22-9672

会費 3,000円

● 若松組仏教壮年会連盟の総会を6月17日に真龍寺さんでおこないました。そこで役員を真龍寺さんの仏教壮年会に引き継ぎました。やっと肩の荷を降ろせましたので、国分会長さんを始め役員の方々の慰労をかねて、暑気払いをおこないます。別枠のお知らせの通りです、会員の皆さんには返信はがきを同封いたします、出欠のご連絡をお願いいたします。

● 先日、副住職とFM会津の間でちょっと論争がありました。

副住職にFM会津からインタビューの依頼があり、そのなかで音楽のリクエストの希望を聞かれたので仏教音楽とお願いしたら、宗教音楽はだめだといわれました。クリスマスソングやゴスペルはポピュラーだからと放送されるのに。どんな音楽か中身も確かめないで否定されました。

副住職がお願いしようとした曲は次のものです

「やさしさにであつたら」 久井ひろ子 作詞 湯山昭 作曲

一、	やさしさに	であつたら	よろこびを	分けてあげよう		
	しあわせと	おもつたら	ほほえみを	かわしていこう		
	海をふく	風のように	さわやかな	おもいそえて		
二、	さびしさを	かんじたら	だれかに	声をかけよう	ふれあいを	たいせつに
	語りあう	友をつくろう	花の輪を	つなぐように	とりどりの	おもいつないで
三、	くるしみに	であつたら	ひたすらに	たえていこう	合わす掌の	ぬくもりに
	ほのぼのと	やすらぐところ	かぎりない	ひかりのなかに	生かされて	生きてゆく日々

確かに仏教音楽ですが、放送するに不都合があるとの判断されるとは思いませんでした。

仏教音楽がポピュラーになれないのは放送界の差別性にあつたとおもうのですが

以上のようなことをメールであちこちにお知らせしたところ、いろいろご意見を頂戴いたしました。

依頼したFMの人にも問題があるのだと思います。どこまでが宗教音楽か、それがなぜいけないのか自分としてのちゃんとした判断基準もなしに、ただマニュアルに沿って答えただけかもしれないし・・・多様なこの世で単一の視点、価値観がマニュアルなどで大手を振ってまかり通る社会になりつつあるのが心配です。怒らず、焦らず、淡々とやり続けていくしかないのでしょうかね。（若松）

私も同感です。今の日本の放送界は「信教の自由」の本質（個人の宗教・信条を尊ぶ精神）が理解されていない上、オンエアするかどうか、取り上げるかどうかの判断基準もなく、はなはだしい加減です。宗教に対する無知、人間の尊厳に対する無感覚が野放し状況です。それはそのまま現代の日本人に通じるころではありますが一。（大阪）

いつも楽しいお便りを有難うございます。大変ご活躍ですね。こうして本光寺の四季を伝えて下さって感謝しています。FM会津の担当者はどういう考えなのでしょう？理解に苦しみます。この詩は本当にいい詩ですね。どうしてこんないい歌を放送してくれないのでしょうか！？（東京）

「やさしさに出会つたら」・・・いい歌ですね。曲はどんな感じなのでしょう。仏教音楽かあ、そういえばそういうジャンルのこと、あまり聞きませんね。御詠歌のようなものが含まれるのでしょうか？

それとも、お葬儀のとき打楽器をジャンジャン鳴らすにぎやかなものも？私はジャンルを問わず音楽が大好きなので、また教えてくださいね。エンヤやダニエル・コビアルカの曲は、こうしてPCで仕事をしているときのBGMです。講義（大学で週3日）も全国を行脚している講演も、ギター弾き語りの歌つき（笑）。老眼が進んで目は衰えたけど、神様に聴力と声だけは残してくださいとお願いしています。音楽が生きがいです。（岡山）

玲爾さん。いつもメール連絡有り難うございます。お元気そうで何よりです。智子副住職さんもお忙しいのしょう。FM局からのリクエストに仏教音楽という、特定の宗派宣伝音楽とでも思ったのでしょうか。一般世間には通じないでしょうね。本願寺派内でもどうでしょうか。「やさしさにであつたら」だったら、仏教用語はなく世間のママさんコーラスの歌と変わりませんね。内容がすばらしいので楽譜をばら撒いて歌ってもらったらいいね。(Los Angeles)

遠く大阪よりメールします。読売新聞の村上です。お怒りはまことに正当と思います。ただ、副住職さんが、リクエストに「やさしさにであつたら」久井ひろ子 作詞 湯山昭 作曲 と答えていたら、そのまま放送されたと考えます。テー

プかCDを貸してほしいと言われたかもしれませんが。FM放送もマスコミのひとつであり、共通の「鬼神は敬して遠ざける」という考えを持っています。鬼神とは、まともに喧嘩してもこちらが傷つくだけで何の益もない相手のことで、社によって違いますが、どこからかうっとうしい苦情が来そうで、こちらがそれに対して理論的な反撃をする自信のない場合が多いでしょう。FM会津放送さんは、「仏教音楽」という言葉から、ご詠歌や声明のようなものを想像したのでしょうか。湯山さんは日本の歌曲の代表的作曲家の一人だということは、おそらく知らなかったのでしょうか。ここでひとつ太っ腹に構えて、マスコミの無知を笑い、迷妄を啓蒙してやるよう、また無知なやからが相手の場合、人を見て法を説いてがんばってください。

そして、依頼されましたFM会津から電話がかかりテレフォンインタビューが始まりました。リクエストはなしです。宗教に関係ないようなスカウトのことをお話くださいとディレクターからいわれておりましたが、スカウト活動は宗教を基本にしているからと宗教色を丸出し、バックには「やさしさにであつたら」のCDをリピートで流しておきました。そして次の方を紹介するのですが本光寺の仏教婦人会長さんにしました。本光寺の合唱団の中心メンバーでもあります。